



デ ィ ー マ グ
D-mag
KYUSYU DIGITAL SOLUTIONS MAGAZINE



PICK
UP!

SPECIAL INTERVIEW

「飲むだけじゃない、日本酒を知る楽しさ」
油長酒造株式会社さま

DX CASE STUDY

働き方を変える！導入事例のご紹介
株式会社ヤマセイ総設さま

あなたはもう使ってる？
生成AIで生活も仕事ももっと便利に！
Meet Our Team 社員紹介
クイズ(駅名編)／当社からのお知らせ

飲むだけじゃない、日本酒を知る楽しさ ～NFCタグで紡ぐ日本酒の歴史と新体験～



話を聞かせていただいたのは
油長酒造株式会社
代表取締役 十三代目蔵元

山本長兵衛さん



Customer Profile

油長酒造株式会社

1719年(享保4年)創業。奈良県御所市に本拠を置く、創業300年以上の歴史ある日本酒蔵。代表的な銘柄である「風の森」をはじめ、伝統と革新を融合させた日本酒を製造・販売している。2024年3月には、当社の酒造会社向け受発注管理システム「くらモール」を導入し、デジタル化による業務効率化を進めている。

ホームページ



近年、年齢や国境を越えて人気の日本酒。地域の歴史や蔵人の想いが込められた日本酒は、ただ飲むだけでなく、その背景を知ること、より深く味わいを堪能できるといいます。日本清酒発祥の地、奈良で300年続く老舗蔵元の油長酒造株式会社は、NFCタグを活用し、日本酒の背景にある歴史やストーリーを可視化することで日本酒の新たな価値を創造しています。同社13代目蔵元の山本長兵衛さんに日本酒造りの思いを伺いました。

「風の森」「水端」それぞれのお酒に込めた想いを教えてください。

油長酒造は、奈良県御所市で300数年にわたってお酒造りをやっているのですが、奈良は日本清酒発祥の地であり、現代の流通できるお酒の礎が出来た場所と言われています。奈良は、元から無いものが生まれてくる場所・始まった場所であり、そしてこれから新しく造っていく場所。だから、「風の森」では、果敢に新しい技術・技法にチャレンジしています。ただ、その歴史のことを知らないと新しいだけで終わってしまいますので、「水端」では、古典のレシピを基に「甕(かめ)仕込み」という伝統的な製法を用いることで、歴史的な背景や奈良の酒造りの背景、積み上げてきたものを深く理解し、噛みしめた上で、そのエッセンスを「風の森」に重ね合わせています。新しい技術とミルフィーユのように重ねていくことで、現代的なお酒の中に歴史的な背景も盛り込んでいく。「水端」と「風の森」が両輪で伝統と革新を両立させながら、動いていくような形を模索しています。

「古典技法を再現したお酒「水端」にNFCタグを導入された理由は何ですか？」

NFCタグの導入は、私たちの日本酒をより深く味わっていただきたいという思いから始めました。お酒は、「美味しさ」が何より大事ですが、美味しい理由が色々あります。それは、その地域が積み上げてきた歴史的な背景や我々のような酒蔵が世代を超えて重ねてきた作り手の思いというも美味しさの一因です。こういうものが一言二言で伝わるとい

いのですが、意外と伝えるのが難しいんです。味の部分というのは、お客さまがグラスに注いで、口に含めば「美味しいな」って気に入ってくださるんですけど、その背景の部分は、商品のパッケージに書いても全然見えない。どのように伝えたらいいか考えていて、思いついたのが「NFCタグ」を活用した方法です。この方法だと、お客さまがスマートフォンをタグにかざすとお米の原料のことやそのお酒の歴史が分かり、私たちが造るお酒の美味しさの理由、その美味しさの先にある情報をつかんでいただきやすくなると考えています。今後とも味以外のお酒の構成要素を多くのお客さまに知っていただけるような取り組みを続けていきたいと思っています。

NFCタグを活用した水端1568▶



「お酒の価値について、どのような部分を大切にしていますか？」

お酒の価値って、テクニカルなところに注目されることが多いですね。テクニカルな価値というのは、良い機械を使っていたり、お米をたくさん削って粒が小さければ、それだけコストも高くなって、価値も高くなるって考えですが、私たちは、どちらかというと技術的な部分よりもこの蔵が持つ歴史やこの地域ならではの文化のようなものを大切にしていきたいんです。例えば、原価が安いお酒でも蔵の歴史や地域の特色を詰め込めば、十分に価値のあるものになると思います。だから、

私達のお酒は、どれも手頃な価格なんですけど、それぞれの酒に蔵の想いとかが、地域の価値を乗せる、ということをやりたいと思っています。



昔の酒造りが記述される「多聞院日記」等の書物▶

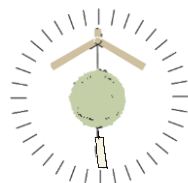
「お酒造りをしていて、一番嬉しい瞬間を教えてください。」

お酒のイベントやレストランで「風の森がきっかけで日本酒好きになりました」と言ってくれていただくお客様と結構お会いすることがあって、そういう声を聞いた時がやっぱり一番嬉しいですね。日本酒は「シンプルで美しく綺麗なもの」というのもいいですが、「ちょっと複雑でちょっと奥がある」というのがやっぱりお酒の良さだと思います。そして、飲んだら本当に美味しいと思っていただけるような品質のものをやっぱり造りたい。日本酒の複雑な味わいが生み出す「奥深い美味しさ」を多くの方に知っていただけるよう今後も取り組んでいきたいです。

※2024年8月取材

「くらモール」とは？」

「くらモール」とは、九州デジタルソリューションズが開発した酒造会社向け受発注管理システム。酒販店(特約店)との煩雑な取引を簡略化し、受発注業務の「手間・面倒・無駄」を削減する酒造会社さまのお悩みから誕生したシステムです。※詳しい情報はこちらから▶



「奈良は日本清酒発祥の地!？」

奈良と日本酒の物語 - 未来へ繋ぐ油長酒造の酒造り -

古都奈良の豊かな自然と清らかな水が育んだ日本酒の歴史をひも解き、300年以上の伝統を持ちながらも革新を続ける油長酒造の魅力に迫ります。伝統と未来が交差する奈良の酒造りの物語と一緒に探ってみましょう!

Chapter1:奈良のお酒造りの歴史

1 奈良が日本清酒発祥の地と言われる理由

奈良が日本清酒発祥の地と言われる理由は、古くからお酒造りが行われていた証拠がたくさん残っているからです。例えば、日本最古の醸造施設がある春日大社や酒造りの神様が祀られている大神神社、そして「日本清酒発祥の地」として知られる正暦寺などがあります。さらに、古事記や日本書紀などの古文書にも酒造りに関する記述があり、奈良で古くからお酒が造られていたことがわかります。

2 奈良にはどんな日本酒の歴史があるの？

奈良の日本酒の歴史は、正暦寺で始まったと言われてます。正暦寺は、平安時代(992年)に一条天皇の命令で創建され、室町時代から約200年にわたり清酒造りが行われていました。当時は、寺の経済的自立のために始まった酒造りですが、その品質は高く、「無上酒(この上が無い酒)」と称され、権力者たちにも高く評価されました。また、正暦寺や興福寺では、現代の酒造りの礎を築いた場所としても知られています。例えば、「三段仕込み」や「諸白造り」、「菩提もと造り」、「火入れ」などの技術は室町時代に確立されたそうです。奈良の寺院が生み出した伝統と革新の精神は、日本の酒造りの発展に大きく貢献し、今も多くの酒蔵で受け継がれています。



Chapter2:油長酒造の歴史と人気の理由

1 伝統×革新! 油長酒造が生み出す未来の日本酒

油長酒造は奈良県御所市に位置し、江戸時代から300年以上続く歴史を誇る酒蔵です。もともとは菜種油屋として創業し、屋号「油長」は創業者・油屋長兵衛に由来します。伝統的な酒造りの技術を守りつつも、革新的な取り組みを進め、高品質な日本酒を提供し続けています。代表銘柄「風の森」シリーズと「水端(みずはな)」は、伝統と革新の融合を象徴しています。「風の森」は、日本清酒発祥の地・正暦寺で開発された「菩提もと」の技法を現代技術と融合させ、無濾過・無加水・火入れを行わない、しぼりたての生酒にこだわり続けています。この製法により、米本来の旨みをダイレクトに感じる事ができ、フルーティーで爽やかな味わいが特徴です。一方、「水端」は室町時代の大甕仕込みを再現し、じっくり時間をかけて醸造されています。芳醇な香りや深みのある味わいが特徴で、NFCタグ技術を取り入れ、消費者に製造過程やストーリーを提供する新たな体験を提案しています。伝統と革新を融合させたラインナップが、日本酒の無限の可能性を広げています。



2 地域を守り、未来を醸す。油長酒造の挑戦

油長酒造は、奈良の美しい里山を守り、未来へ繋ぐための取り組みも行っていきます。米作り農家の後継者不足や高齢化などが問題となっている地元・御所市の問題を解決するため2024年に「葛城山麓醸造所」を立ち上げました。この醸造所では、地元のお米「秋津穂米」を使用して「S風の森」を醸造しています。農家、酒蔵、酒屋、消費者をつなげる「風の森里山コミュニティ」という仕組みをつくり、農家から酒屋が直接米を仕入れ、醸造所で日本酒を醸造し、酒屋が販売。その収益の一部を地元へ還元し、地域の魅力を伝えると共に、里山を未来へと繋ぐ活動を行っています。油長酒造の取り組みは、酒造りに留まらず、地域と人のつながりを深め、未来へと続く物語を紡いでいます。



INTERVIEW PHOTOS



油長酒造のブランド商品 (左から) 風の森<秋津穂657> 水端1568 風の森 ALPHA1「次章への扉」



油長酒造の日本酒は、この美しい秋津穂の米から生まれます。丹念に育てられたこの米が最高の一杯を生み出します。

NEWS

2024年12月 「日本の伝統的な酒造り」ユネスコ無形文化遺産に登録されました!



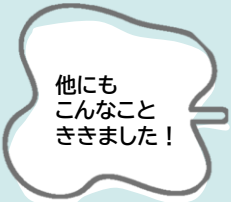
導入事例のご紹介

当社のご提案により、煩雑なバックオフィスの手間を大幅削減、経営状況の可視化を実現したお客さまの事例をご紹介します！

#業務効率化

#働き方改革

#経営状況の見える化



Q. 当社を選んだ理由は？

A. 金融機関が母体であるため、安心感と信頼感があります！

Q. 担当者の対応は、いかがでしたか？

A. 良いことも悪いことも正直に言える人柄で、相談にも臨機応変に対応していただきとても感謝しています。スピーディーな対応でとても頼りになります！

嬉しいお言葉
ありがとうございます！



データ連携で経営が変わる！

「見える化」と「効率化」で働きやすい会社を実現！



お客さま名 株式会社ヤマセイ総設

業種 各種配管工事

従業員数 26名（2024年6月時点）

お客さま紹介

配管工事専門企業。高い技術力と安全第一の姿勢で、製造からメンテナンスまで一貫したサービスを提供しています。2023年には新工場を開設し、今後は自動化や省人化を進め、さらなる事業拡大と生産性向上を目指しています。

ホームページ



／ ご提供したサービスはこちら！ ／

勤怠管理システム

給与・会計システム

ホームページ制作

原価管理システム

経費精算システム

会社ロゴ制作

課題① 経営状況が見えない

・勤怠・給与・会計を外部委託しているため
月末の集計作業が大変！
月次決算が2~3か月遅れていた！

・勤怠・給与・会計・原価管理が
データ連携できていないため
経営状況が見えない！



デジタルで解決！

・外部委託を内製化したことで
月末の集計作業の負担と外部委託費が大幅に削減！
業務効率化も実現！

・各データが一元化されたことで
経営状況が見えるようになり
スピーディーな経営判断も可能に！



お客さまの声

外部委託から内製化、データ連携による一元管理でリアルタイムな経営判断と業務効率化が実現！

ーシステムを導入して1番実感した効果を教えてください。

システム導入前は、会計・給与・勤怠をすべて外部委託していましたが、外部への提出用に集計作業が必要で、バックオフィスの負担が大きく悩みの種でした。月次決算も2~3か月遅れ、リアルタイムに経営状況を把握できませんでした。また、原価管理もエクセルや台帳で行っていたため、内容を把握しているのは私だけでした。

システム導入後は、集計作業の時間が大幅に短縮され、月末の作業が非常に楽になりました。外部委託の契約費用も削減でき、実際に数字でも効果が現れています。月次決算も翌月には完了し、スピーディーな経営判断が可能になりました。原価管理もシステム化され、社員が数字を見る機会が増えたことで、目標を立てて業績管理を行うようになり、原価率なども意識するようになりました。社員の意識が大きく変わり、結果的に非常に良い効果が出ています。



代表取締役 山下 逸生氏

課題② バックオフィス業務の負担大



・会社の成長スピードが早くなるにつれて、バックオフィス業務が疎かになっていた。

・少ない人員で担っており、経費・勤怠・給与・会計などの業務が回らない状況だった。

デジタルで解決！

・システム導入したことで
入力や確認、集計の手間が削減！
バックオフィス業務の効率化を実現！

・各業務の仕仕事量がスリム化、
社員の業務負担が大幅に削減！



課題③ 採用を強化したい

・ホームページを活用して
人手不足を解消したいが
求人への応募が少ない。
良い人材が集まらない。



デジタルで解決！

・ホームページをリニューアルし、
企業の魅力を効果的に発信！
企業の信頼性が向上したことで
求人応募数だけでなく、
新規案件の問い合わせも増加！



お客さまの声

ホームページリニューアルで採用と新規案件の問い合わせが急増！SNS活用でさらなる飛躍へ

ーホームページリニューアルでこだわった点を教えてください。

採用ページに力をいれています。特に、数字で見える情報を盛り込んだり、当社の別の採用サイトにとべるようリンクを貼付したり、その点はこだわりました。

ーホームページリニューアル後の反響について教えてください。

リニューアル後、ホームページを見た求職者からの問い合わせが増え、工場見学の希望や面接の申し込みが多く寄せられています。熊本や福岡からの問い合わせが多く、同業者からの新規案件の依頼も増えました。今後はSNSを活用した広報活動も取り組む予定です。



総務部 人事課 主任
黒田真奈美氏

／ 今後のビジョンを聞かせてください！ ／

今は、組織強化に力を入れています。これは大きな課題なので、しっかり取り組んでいるところです。将来的には、現場のコストダウンや業務効率化も進めていかなければなりません。人手不足の問題もあるので、工場の製造を自動化するなど、設備投資を進めていくことも視野に入れています。まだまだ課題は多いですが、一つずつ改善していきたいですね。

代表取締役 山下 逸生氏





九州デジタルソリューションズ

Kyushu FG

九州デジタルソリューションズ



<https://kyu-ds.com/>



FOLLOW ME!!
@kyushu_ds

発行元:熊本市西区春日1丁目12番3号 Tel. 096-326-8881

※本書は、信頼できるとされる各種情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、安全性を保証するものではありません。
また、本書に基づく事業展開等で不利益などの問題が生じた場合、一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。

発行 2025年3月